



果樹類の生育は昨年比 1 週間遅れで推移しています。梅雨期間は果実腐敗性病害の重要防除期です。引き続き、一定の間隔で薬剤散布を進めてください。尚、サビ発生防止のため、6 月末までは高温時の散布は控えてください。

りんご 6 月下旬の薬剤散布（定期）：前回より 15 日後

散布時期：6 月 20～25 日

散布薬剤：水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

シトラーノフロアブル 1 0 0 ml（45 日前、3 回）

劇 スプラサイド水和剤 6 6 g（30 日前、2 回）

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類、クワコナカイガラムシ、リンゴワタムシ

注意事項

- ① シトラーノフロアブルは収獲 45 日前規制のため、極早生（恋空等）には飛散しないようにする。
- ② スプラサイド水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ③ 枝腐らん病対策：トップジン M 水和剤 1000 倍（前日、6 回）を加用する。
- ④ カルシウム補給：スイカル 1, 000 を加用する。また、スイカルに代えてストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。
- ⑤ 輪紋病・炭そ病対策：IC ボルドー412 の 33 倍を 7 月初旬に特別散布する。ただし、早生種にはボルドー液は散布しない。

散布日：6 月 日

散布量： リットル

6 月下旬（定期）

りんご 7 月上旬の薬剤散布（定期）：前回より 15 日

散布時期：7 月 5～10 日

散布薬剤：水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

劇 バイスロイド EW 5 0 ml（7 日前、4 回）

ジマンダイセン水和剤 2 0 0 g（30 日前、3 回）

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：輪紋病、炭そ病、斑点落葉病、褐斑病

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

注意事項

- ① 通常展着剤（ハイテンパワー等）に代えて、機能性展着剤のササラの 2000 倍（100 リットルに 50ml）を使用すると薬液が葉裏（毛の間）によく広がり、散布後の乾きも早くなる効果がある。
- ② 枝らん病・褐斑病対策：トップジン M 水和剤 1, 000 倍（前日、6 回）を加用する。
- ③ カルシウム補給：スイカル 1, 000 を加用する。また、スイカルに代えてストピットⅡの 500 倍を使用してもよい。

散布日：7 月 日

散布量： リットル

7 月上旬（定期）

りんご 7 月中旬の特別散布：前回より 7 日

散布時期：7 月 12～17 日

散布薬剤：水 1 0 0 リットル

展着剤 1 0 ml

オーソサイド水和剤 8 0 1 0 0 g（前日、6 回）

散布量：10a 当り 600 リットル

対象病害虫：輪紋病、炭そ病、斑点落葉病、褐斑病

注意事項

- ① 前回（7 月上旬の定期散布）から 7 日後を目安に散布する。
- ② 固着性展着剤のアビオン E の 1000 倍（100 リットルに 100ml）を使用すると薬液付着効果が高まる。
- ③ ハダニ類対策：第 9 回散布予定のダニコングフロアブル 2, 000 倍（前日、1 回）を繰り返して今回の薬剤散布に加用する。

散布日：7 月 日

散布量： リットル

7 月中旬（特散）

6月の葉面散布資材使用例

*N-窒素、P-リン酸、K-カリ、Mg-苦土、Mn-マンガン、B-ホウ素

商品名	保証成分量	使用目的	使用時期	倍率(倍)	価格／規格	600 円の価格
グリーンデイズ (微量要素補給に！)	水溶性苦土 16% 水溶性マンガン 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	結実後～ 6月下旬	1000	1,503 円／1 kg	901 円
オルガミンDA (葉の健全育成に！)	窒素全量 0.11% 水溶性苦土 4% 水溶性ほう素 0.7% 水溶性加里 0.11% 水溶性マンガン 0.25%	光合成促進 品質向上 等	結実後～ 収穫前	1000	3,666 円／10 15,552 円／50	2,200 円 (10) 1,866 円 (50)
ビックマグ	水溶性苦土 23%	苦土補給 葉の健全化	結実後～ 6月下旬	1000	1,149 円／1 kg	689 円

りんご殺ダニ剤の選択について

○：効果ある △：効果やや劣る ×：効果ない

薬剤名	倍率	使用 基準	使用 回数	IRAC コード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴ ハダニ	ナミ ハダニ	卵	幼若虫	成虫
ピラニカ水和剤	2000	21 日前	1 回	21	○	×	○	○	○
カネマイトフロアブル	1000	7 日前	1 回	20	○	○	○	○	○
マイトコーネフロアブル	1000	前日	1 回	20	○	○	△	○	○
オマイト水和剤	750	3 日前	1 回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1 回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1 回	23	○	○	○	○	△
スターマイトフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2 回	25	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1 回	25	○	○	○	○	○

① 殺ダニ剤ローテーションについて (2019)

- 7月下旬 (7/20～25 頃) : ダニコング F2,000 倍 (中期的抑制効果あり・残効 14 日程度) ⇒梅雨明け早い場合は前倒しへ
- 8月上旬 (8/5～10 頃) : コロマイト乳剤 1,000 倍 (速効的・成虫に効果高い・残効短い) ⇒散布ムラがないように
- 8月旬 (8/20～25 頃) : オマイト水和剤 750 倍 (成虫に効果あり・残効やや短い) ⇒ダニ退治の締め

② ダニサラバ・スターマイト・ダニコングは同一薬剤系統である。抵抗性回避のため、いずれかを年 1 回のみ使用とする。

③ ダニゲッター (ダニサラバ) は成虫に対してやや遅効的效果を示す。散布 7 日後以降に効果が発現する。

	リンゴハダニ	ナミハダニ
越冬	リンゴ樹上の芽基部や皮のくぼみに産まれた卵で越冬	雌成虫が粗皮下や雑草等で越冬 越冬成虫はあざやかな朱色
春先	4月中旬から孵化を始め、開花直前には終了し、夏卵を産む	3月に入ると越冬場所から移動するが、りんご樹上では春先に多発することはない。
発生消長	6月中下旬から増加し、ピークは7月中旬～8月上旬で、その後ナミハダニが増加すると一時的に密度が低下する。	発生ピークは8月中下旬頃であるが、早い時期は7月下旬、遅い時期は10月になる場合があり変動は大きい。

果樹特報 No6 発行予定：7/17 (水)

- 7月下旬 (7/20～25) * 梅雨明け後
- 8月上旬 (8/5～10) * 盆前
- 8月中旬 (8/15 前後) * 盆中

スマホで楽々閲覧！果樹特報 No5